

6.3 教育方法のあり方

進捗状況報告

2009年度の学部改組にともなう新カリキュラムの策定に当たっては、各科目の特性を考慮した上で授業形態やクラスサイズに注意を払った。各学科の専門科目に関しては、教室会議レベルで検討すると並行し、複数の学科を対象にした科目、および他学科に提供している科目については、教えるべき内容、クラスのサイズ、教員を非常勤とするか専任とするかについて、カリキュラム委員会で慎重に議論を行った。

実験・実習科目や語学教育のクラスサイズに関しては、適正な規模に保てるよう特に留意している。2007、2008年度の入学者数が定員を大幅に上回る学科が存在したが、英語、コンピュータ演習、および物理学の導入教育のクラス数を急遽増やす措置を講じた。この点に関しては、学部の入学試験部門と教務部門が連携するシステムが確立できている。

授業方法やマルチメディアの活用の実態とその効果の分析については、現在検討を進めているFDの立案、および2008年度の授業評価結果と連動して行う計画である。

学内第三者評価

2009年度の学部改組にともないクラスサイズの適正化に向けて検討が行われている。授業方法やマルチメディアの活用の調査と分析については、2005年度の改善の具体的方策でも記述があるがいまだ検討の途上にある。早急に学部としての考え方が出されることが期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
記述なし。